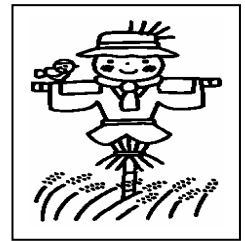


# ぷらう 37号



発行：TEACCH プログラム研究会

## 巻頭のつぶやき

TEACCH プログラム研究会会長 内山 登紀夫  
(よこはま発達クリニック)

### 特別支援教育

今年は特別支援教育が本格的に始まった年だそうだ。いつから「本格的に」というのは実際のところよくわからないが、地元の A 市では特別支援関係の会議とか学校訪問が以前よりもずっと多く企画され、現場の教師や教育関係の事務方、保護者とも話をする機会がずっと増えた。

最近の印象は学校の中での自閉症の児童・生徒の比率が高くなっていることで、これは特別支援学校でも特別支援クラスでも、通常級でも同じだ。特別支援学校では児童・生徒の過半数が明らかに自閉症スペクトラム（以下 ASD）ということも珍しくなく、通常学級でも複数の ASD らしい児童・生徒がいることも稀ではない。実数として ASD が増えているのかどうかは正確には答えようのない FAQ (Frequently Asked Question) なのだが、実感として 20 年前と比べると一見して自閉症



らしき人が増えているのは確かなような気がする。教師などの支援者の間でも自閉症スペクトラムの理解は進んできたと思う。ほんの数年前に特別支援学校の先生から「アスペルガー症候群は大きな辞書にも載っていないのですが、本当にあるのですか？」と質問されて驚いたのだが、さすがに今はそういうことではないだろう。「軽度発達障害」と曖昧な用語も頻繁に教育現場で使われるようになった。

ASD や発達障害というコトバが浸透してきたのは良いことだと思が、コトバがコトバに留まり「特別支援」の出発点にならない傾向があるのは困ったことだと思う。

当然のことだが、「軽度発達障害」や自閉症と診断された子どもをみると「切り替えが苦手」だったり、「見通しがつかないと不安」だったり、「しゃべるわりには機能的コミュニケーションが少ない」といった ASD の特性が明らかなことが多い。問題は、専門家が ASD 特性から、子どもを理解して、子ども支援するという考え方をしていないことが多いことだ。「切り替えの苦手」は「好きなことしかしない」と表面的な行動で把握され、「わがまま」だという解釈がなされる。言われたことをしないは、コミュニケーションの障害（かもしれない）とは見なされず、「反抗的」と解釈される。

専門家会議でも相談事項には「わがまま」「自己中心的」、「乱暴」、「ちょっかい出し」などのコトバが羅列され、「この子どもは「正常」なのか「発達障害」なのかそれを教えてほしい」と問われることがある。「正常」なら厳しくしつけるし、「発達障害」なら「しょうがないので、周囲に被害が及ばないような対策をとる」ということになるらしい。こういった解釈をしていては ASD も発達障害というコトバも単なるラベルであって、支援に生かされない。

TEACCH 研の会員であれば、個々の子どもの認知特性を把握して、そこから支援を考えるということは当然の原則になっていると思う。一見、わがままに見える行動でも、その基底には ASD の認知特性が深く関係しているという視点から支援を考える。それが TEACCH の見方の基本だ。ASD の児童・生徒はどの学校にもいる。ASD の診断ではなく、学習障害や注意欠陥多動性障害と言われている子どものなかにも TEACCH 的な考え方で支援することで本来の能力を発揮できる子どもは大勢いるだろう。



よく TEACCH のような特定のプログラムを公的な機関で採用すると大声では言えないという人がいる。そのあたりの事情はよくわからないが、TEACCH の基本である子どもの ASD 特性から支援を考えるということは、すぐにでもできることだ。できるところから始めよう。

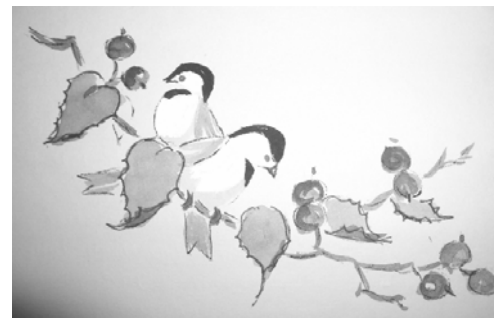
## マーガレット・ランシング先生の思い出

TEACCH プログラム研究会常任理事 新澤伸子（大阪支部）

昨年、機関誌「ぷらう」にショプラー先生の追悼文を書くという役割を与えられ、今度はマーガレット・ランシング先生の追悼文を書かねばならないという現実、寂しさを禁じ得ません。TEACCH プログラム研究会の会員でショプラー先生のお名前を知らない人はいないでしょうが、ランシング先生をご存知ない人もおられるかもしれません。ランシング先生はショプラー先生の奥様でいらっしゃいますが、ノースカロライナ大学に TEACCH 部が創設される以前から、大学の精神科クリニックで心理セラピストをされていました。まさに TEACCH 部の発展の基礎をショプラー先生と一緒に創られ、その発展を見守って来られた方です。

私は 1983 年にチャペルヒル TEACCH センターで 1 年間研修を受けた折、直接指導を頂いたのはランシング先生でした。ランシング先生の臨床家としての卓抜さは、日々の臨床活動の随所に感じることができました。TEACCH センターでの診断後の約 8 回の療育セッションでは、ペアレント・コンサルタントと子ども担当セラピストとがペアで担当します。ランシング先生とのペアで担当させてもらった 3 事例とも親・子・家庭背景ともに、それぞれ特色のある事例でした。ある事例は親ごさんも療育に熱心で、次のセッションまでに家庭でいろいろと工夫をして来られ、子どもの様子もどんどん変わり、私自身も毎回のセッションが楽しみでした。もう一つの事例は、家庭ではほとんど取り組みができず、次回来所されるかどうか不安な・・・というケース。もう 1 事例は、母親は子どものことを話すたびに涙ぐんでしまうという子どもの障害を受け止め切れないう段階の事例でした。子ども担当をしていると、ついつい親の側の視点から見ることを忘れがちになったりしますが、子どものペースに合わせるだけでなく、親のペースや真のニーズをつかんで、対応していくことの大切さを学びました。初めての療育セッションの日に「タベはドキドキしてあんまり眠れないくらいだったわ。」と先生がおっしゃったので、こんなベテランの先生でもそうなのかとびっくりしたら、「私は初めてのセッションの時は、いつもそうなの。」と言われたことが印象に残っています。

帰国してからも何かと気にかけて下さり、お庭の小動物や草木の手書きのスケッチ入りのクリスマスカードを毎年送って下さいました。家族を大切に、自然を愛し、というお人柄は、手作りのカードにもあらわれていました。9 つの赤い実はお孫さんを表しているというコメントがついていました。最後にお会いしたのは、昨年 11 月に研修で 1 週間ノースカロライナを訪問した折でした。7 月にショプラー先生がお亡くなりになった後でしたので、再会をこと





のほか懐かしんで下さいました。その折、同席したフェアアットビル TEACCH センターのスティーブ・クルーパー先生からの「TEACCH のアプローチを3つの文であらわすとしたら何と表現しますか？」との問いに次のように答えられました。

1. 決まったやり方があるのではない。
2. 理論を当てはめて理解するのではなく、子どもと家族を観察することにより理解しようとする。
3. ただ一方的な観察ではなく、やり取りを通してより深く理解しようとする。

そして、もう一つ付け加えられたことは、あなたのペースに関わるのではなく、子どもや親のペースに合わせて待つことも必要。この言葉をお聞きして、ランシング先生がどのケースについても

はじめてのセッションの際に、ドキドキすると言われたことの意味をより深く理解することができました。

ランシング先生はその後チャペルヒル TEACCH センターに時々出かけて、若いインターン生の指導をされていると伺っていましたが、自動車の事故でお亡くなりになったという突然の訃報に、何かの間違いであってほしいと祈らずにはいられませんでした。今頃はきっと、いつもそうであったように、このスケッチの2羽の鳥のように、ご夫婦で寄り添って空の上から私たちを見守ってくださっていることと思います。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

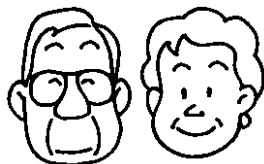
### マーガレット・ランシングさんへの弔意を

### TEACCH部基金への寄付金で表したいと思います。

★会員の皆様からの寄付金を募集いたします。

所属支部の理事まで、それぞれのお気持ちの額をお届けください。

募金の締め切りは10月25日までといたします。



ショプラー先生・ミギー先生 永遠に・・・。

## 平成 19 年度第 2 回理事会 報告

日 時：平成 19 年 7 月 28 日（土） 13：00～16：00

会 場：ハートピア京都

参加理事：内山、村松、宇山、新澤、諏訪、志村、岡田、谷中、（愛知支部代理：本山、杉江）、  
野畑、井上、浅井、（兵庫支部代理：大西）、丸岡、内田、（佐賀支部代理：下川）、丸  
目、竹内、南前

### 議案 1：第 8 回実践研究大会の会計報告（佐賀支部 下川）

佐賀支部事務局の下川さんより資料をもとに会計報告がなされ、理事会で承認された。

### 議案 2：コラボレーションセミナーについて（村松副会長）

1、京都府、京都市より名義後援の許可がおりた。（野畑理事）

2、コラボレーションセミナーの事例発表者が決まった。

午前 2 ケース 午後 2 ケース発表の予定で以下の 4 支部から発表者が決まった。

・ 神奈川支部 ・ 香川支部 ・ 佐賀支部 ・ 京都支部

会場は 700 名の収容は可能。参加者募集締め切りは作らない。会場が満員なり次第締め切ることとする。

会員への周知はチラシを作って 9 月のぷらう秋号にはさむこととする。また、TEACCH 研の HP にもチラシで案内をする。さらに各支部から会員外にもチラシを配ることとする。

### 議案 3：ぷらう秋号について（香川支部 丸岡）

丸岡理事は今年度が最後になり、理事を交代されるとのこと。そのため、今回からぷらうの原稿は熊本の丸目理事が集約して編集されることとなった。

<ぷらう秋号 2007 年秋号>

掲載する内容について丸岡理事より提案され、了承された。

### 議案 4：トレーニングセミナーについて（事務局）

来年度（20 年度）のトレーニングセミナー開催支部は石川支部である。

TEACCH 研のトレセミの位置づけを明確にし、参加者を募集することとなった。

支部推薦については、各支部がその支部事情において運営面の戦略として参加者を紹介推薦することも可能であることとした。

### 議案 5：各支部のあり方について（事務局）

平成 19 年 7 月 28 日現在の会員数は 2239 名である。2 月に総会を開いた頃よりまた会員数は増えている。TEACCH 研の特徴としてもっともよいところは、会員が顔を合わせて相互に実践について意見交換を行うことができること。また、そのような会を開催できることであることが会長より確認された。

各支部は全国組織の 1 部であり、支部としてのある程度の活動規準を明確にした。

①必ず相手の顔を見て話せるよう集まって実践について情報交換をする

②支部主催の会を必ず年に 1～2 回行う

③事業報告、会計報告を会長まで提出する

その他；会員は他支部の勉強会に参加することは可能だが、参加費についてはその開催支部の裁量で決められる。

## 議案：6 新支部立ち上げ条件について（事務局）

新たに支部を立ち上げる際は、以下の要件を満たすこととした。

- ①支部名簿（10名以上であること）
- ②支部会則
- ③現在の会の会計執行状況
- ④これからの活動計画を説明する

この内容は本会の会則、第4章、第13条の内容に関わってくる。文意や確認点についてさらに、総務ML、理事MLなどで話し合い、今後の会則の文章について取り扱いを決定する。

## 議案：7 スペース96からの提案について（内山会長）

会長よりスペース96より、アフィリエイトについての提案があったと説明を受けたが、会員より様々な提案や意見がありそれらを持って会長がもう1度スペース96と相談することとなった。

## 議案8：TEACCHプログラム研究会のHPについて（宇山副会長）

京都支部会員からの提案資料をもとに話し合う。

話し合いの要点としてまず、HPをどうしていくかを確認された。現在は情報提供が中心にHPを作成している。今後は団体としての特性や歴史が見られるもの、トレセミについての報告や写真、実践研究大会の報告や写真などを載せたいと考えている。

この大きくなった組織の会員相互のコミュニケーションをどう図っていったらよいか。ぶらうをはじめ、読み手は受けとるあるいは与えられるのみ。それについて発信する場がない。会員が要望をあげることができるように理事は今後も例会や事務局をとおして会員の意見を吸い上げ、理事MLに積極的に持ち上げていくことと確認した。

## 議案9：会員の名簿移動と会費の移動について（事務局）

年度途中の会員の移動手続きについて手続きルール確認をした。（会員登録参照）

## 議案10：その他

- ①平成20年度の実践報告大会の会場は、熊本と愛知が推薦された。
- ②会長より故ショプラー先生の奥様のマーガレット・ランシング先生が交通事故のため御逝去されたとお知らせがあった。（理事会後、弔意を表すための寄付金を募ることと決まった。）
- ③実践報告大会録の進行具合について  
福岡・・・テープ起こしまで作業完了。以後状況はMLにて報告する。  
佐賀・・・これから作成に入る。
- ④次回理事会は 平成20年1月25日 京都にて午後7：00より開催する。

# TEACCH研 HP

いつもホームページをご覧いただき、ありがとうございます。秋以降は1月のTEACCHコラボレーションセミナーや20年夏に行なわれるトレーニングセミナーの申し込み情報、そして支部の活動情報を発信してゆきたいと思えます。

ホームページアドレス <http://www.teacchken.com>  
会員専用ページパスワード TTAP（大文字でティー ティー エー ピー）  
会員パスワードは「ぶらう」発行ごとに変更してゆきます

## TEACCH プログラム研究会 会員登録について

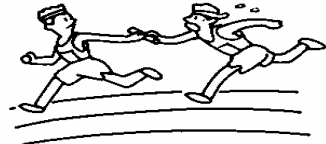
1. 支部の所属は基本的に本人の希望する支部に入会する。
2. 年度中の支部移動について(名簿)  
会員の支部移動には、名簿と会費を動かす必要があるが、名簿については移動の連絡を、土倉事務所と本部事務局にした後、土倉事務所の名簿は動かされる。
3. 年度中の支部移動について(会費)  
名簿については連絡を受けると移動されるが、会費移動についてはその会員が年度初めに退会扱いになっていない限り(未納会員も含む)、初めに所属していた支部から年度内は会費を動かさない。
4. 2つの支部双方に会員登録することも可能だが、その場合の会費は2支部に支払うこととなる。
5. 未納・忘れ・退会後入会など、手続きが遅れ会費の所在に迷う時は、直接土倉事務所と本部事務局の両方に交渉をし、確認すること。
6. 支部移動で会員を大量に受け取り、会費が入らなくて困るなど支部事情に大きく異変がある場合は、会費は当事者の支部同士の裁量とする。しかし、決定後変更のあったものについては、必ず土倉事務所と本部事務局へ報告をすること。
7. 退会について  
年度途中に会員の意志により退会を希望する場合は、会員は支部に連絡する。その旨を聞いた支部理事は、本部事務局まで連絡をする。本部事務局はただちに土倉事務所に連絡し名簿の手続きは終了となる。
8. 新規入会について  
入会の手続きは会則のとおりだが、新入会員が直接土倉事務所に入会金と会費を振り込む場合は必ず、振込み用紙に入会する支部名をつけて振り込むこと。

### 事務局からのお知らせ

1. 平成20年度から年会費は4,000円に上がります。  
よろしくお願ひします!
2. **総会のご案内**  
日時：平成20年1月26日(土)  
16:45~17:30  
場所：財団法人京都染織会館 シルクホール  
(地下鉄烏丸線四条駅、阪急烏丸駅 下車すぐ)



# 列島リレー



支部だより (第3回・東京支部・香川支部)

東京支部だより

東京支部副代表 伴 光明  
(東京都立七生養護学校)

東京支部の会員数は2007年5月現在で135名です。保護者と専門職の割合がおおよそ4:6になっています。発足当初は講演会を中心に活動することで力を蓄え、徐々に基礎講座、事例検討のような形を組み合わせてきました。

昨年度全国の皆さまにご支援いただいで開催した3日間のトレーニングセミナーを契機に支部の運営スタッフの層も厚くなり、保護者、専門職が力を合わせて運営を進めています。もちろん、毎回の勉強会に頻繁に通ってくださる皆さん、事務局の仕事を進んで手伝ってくださっている多くの皆さんのお力に頼っている部分も多くあります。特にお母さん方が少ない時間の中でテキパキと手を動かす(なおかつその間も楽しそうにお話をしつつ)姿には本当に敬服させられます!

今年は2月に服巻智子先生に講演をお願いしました。「この会だからここまで言っても大丈夫よね?」と断りながら、大胆なお話を聞かせていただくことができました。それぞれの聞く立場なりに感じるどころがあり、常日頃の支援が将来の生活のあり方に結び付いていることを改めて自覚させていただく貴重な会となりました。

3月、5月、9月は基礎講座を3回シリーズで行っています。画像や実例を含めた基本的な講義に加え、少人数グループでのワークを必ず取り入れることで、参加者それぞれの考えを出し合える場として好評をいただいています。ついつい定刻をオーバーしてしまいがちなので、スタッフとしては無理にお時間を作っていただいている方には申し訳ないと反省しているところです。

7月の事例検討会では、入所施設職員の会員さんから「自傷等の行動問題への対応にデータを蓄積したことで職員間の意識が変わっていったという取り組みの成果がある一方、マンパワーの少なさから物理的構造化やコミュニケーション支援に必要な手だてを用意しきれない」、という報告を受けてディスカッションを行いました。学校時代にコミュニケーションの力を高めることや実際に使えているコミュニケーションツールを引き継いでいくことが少しでも施設での生活に貢献できればよい、といった指摘が会場から出ていました。さまざまなライフステージがある中で、本人にも保護者にも適切な支援を提供していこうとしている職員の方の悩みに共感するところが大でした。

東京支部の合言葉は「FUN! TEACCH」。——副代表のIさんによると、「トレセミ in 函館で諏訪先生にうかがった‘TEACCHでは本人が<Fun!Fun!Fun! (楽しい!楽しい!たのしい!)>とを感じるものを用意する’という話がとても印象的だったので、東京支部もみんなが<Fun!Fun!Fun!>とを感じるような活動をしていきたいと思いました。そこで、TEACCHの実践って楽しい!仲間と一緒に学ぶことが楽しい!という東京支部でありたいという願いをこめ、会報誌は「FUN! FUN! FUN!」と命名されたのです!」とのことでした。現在では「ぷらう」の時期に合わせて発行しています。また、会員が自由に投稿できるメーリングリストも「fun\_teach@...」というアドレス名で呼ばれています。MLも勉強会も会員皆さんに活用していただき、ますます活気ある東京支部にしていきたいと思っています。

その他

2.2

保護者 41.5	専門職 56.3	
教育関係 46.1	福祉関係 30.3	医療関係 23.7



## トレーニングセミナーのご案内

<18年度の東京支部に引き続きまして、20年度はいしかわ支部（石川県金沢市）での開催です>  
来夏、石川県においてトレーニングセミナーを本部事業として行うことは、支部の大きな誇りであり、意義のあるものだと思っています。

このセミナーは初心者のための基礎的なトレーニングセミナーです。支部全体でセミナーを通して、一致団結して頑張っていこうと思っています。

参加者の基準について本部理事会で検討しましたので、その結果をお知らせします！

下記の要件を選考基準としますので、該当される方は申込開始になりましたら、どしどしご応募ください。

### 参加者の要件（基準）

- ・ 自閉症の特性について、基礎的な知識を持っている。
- ・ 自閉症児・者に関わる現場の経験年数が2,3年以上あり、かつこれからも現場で関わっていく。
- ・ トレーニングセミナーに参加経験がない。

の3点です。

なお、定員を上回る応募をいただいた時には、トレセミ実行委員会で、選考させていただきます。申込書の志望動機の欄は、最終選考において重要になりますので、思いを込めて記載してください。どうぞ宜しくお願いします。

### いしかわトレーニングセミナー

1. 会 期：平成20年8月22日～24日の3日間
2. 場 所：アリス国際学園（石川県金沢市）
3. トレーナーおよび講師：諏訪先生 野畑先生 村松先生 重松先生  
中山先生  
(今の段階で決定しているトレーナーの方のみ記載しております。)
4. 申込資格：TEACCHプログラム研究会会員であり、  
上記参加者の要件（理事会での決定事項）を満たす者  
(申し訳ありませんが、保護者は対象にはなりません。)
5. セミナー受講料：5万円～6万円(未定)
6. 定 員：20名（4グループ構成で行います）
7. 申し込み方法及び申込期日：詳細が決まり次第、HP及び次号ぶらうでお知らせいたします。

(註)「自閉症カンファレンス NIPPON」の日程が重なる場合には、トレーナーが変更になる場合がありますので、ご了承ください。確定情報については、TEACCHプログラム研究会のHPで随時情報提供していきますので、ご確認ください。宜しくお願いします。